

物理チャレンジとプレチャレンジ普及活動への取り組み

Physics challenge and Pre-Challenge for the project of dissemination activities

東京工科大¹, 東京大学², 特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会³

○毛塚 博史¹, 長谷川 修司², 近藤 泰洋³, 原田 勲³

Tokyo University of Technology.¹, The University of Tokyo.²,

The Committee of Japan Physics Olympiad, JPhO.³

Hiroshi Kezuka¹, Shuji Hasegawa², Yasuhiro Kondo³, Isao Harada³

E-mail: kezuka@stf.teu.ac.jp

[はじめに] 2004 年に物理系 3 学会（応用物理学会、日本物理学会、日本物理教育学会）の連携・協力を柱として、全国（中）高校生対象に物理学への興味関心を高めるため企画・開催された全国物理コンテスト「物理チャレンジ」を継続実施している。今年で 10 回目を迎え、参加者申込み数が、これまでにない 1700 名を超えた。この節目の岡山大会では、（応用）物理教育に関する演習含めた講演会など各種の催しが企画されている。また、国際物理オリンピック大会へ、毎年、日本代表として 5 名を選抜・派遣する事業も継続して実施している。特に、派遣候補者対象に、理論・実験に関して合宿研修をおこない、物理学への興味・関心を高め、能力増進をすすめている。

このような状況の中で、昨年度から「特定非営利活動法人 物理オリンピック日本委員会」という組織名称になり、わが国の青少年に対して、「プレチャレンジ」など含め、普及広報活動を更に強化する事業が企画されつつある。

[プレチャレンジ事業企画] 物理チャレンジや国際物理オリンピックを通して、全国の理科教員や小中高生に物理を学ぶことの楽しさや魅力をつたえ、実際に、実験などで体験する機会を増やしていくことなど 特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会の重要なミッションです。このミッションの前段階として、全国物理コンテスト「物理チャレンジ」や国際物理オリンピック大会の紹介や物理への導入学習、実際に出題された問題や（応用）物理実験問題の演習・解説などをおこなう「プレチャレンジ」事業を各地の高校や教育委員会と連携して開催[1]している。(Fig. 1 宇都宮高校でのプレチャレンジ) この事業を通して、（応用）物理の普及に寄与するとともに。日本の新しい（応用）物理教育を考える機会になることを期待している。

[実施報告] 過去の実施記録と参考例は下記の通りです。

[1] 2013,2014 年度開催プレチャレンジ報告書

<http://www.jpho.jp/prechallenge.html>



Fig.1 Utsunomiya High School